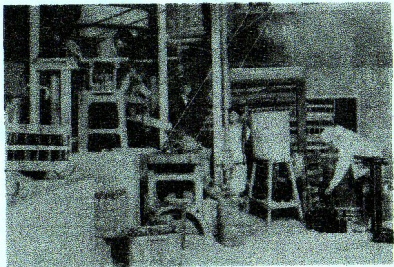


## 西洋野菜栽培温室で

《温室でトマト、キュウリ・・・》

大正 11 年(1922)、南鷹次郎、星野勇三博士の学説を採り入れて三棟の温室をつくり、トマト、キュウリ、メロンの栽培、露地でセロリ、カリフラワー、サンショウ、ニンジンなどを栽培、本道の西洋野菜栽培の草分けだったという。

明治 44 年(1911)、ケチャップの製法に取り組み、昭和 6 年(1931)にはピューレの製造に成功し、年間 25,000 本(ビール瓶)を生産。函館五島軒ホテルと契約し納入した。



トマトソース  
製造工場

「ほっかいどう百年物語」・第 5 集、  
(2004 年 中西出版)

道内に西洋野菜を広めた功績などを載る。STV ラジオで放送されたのを編集。(北斗市郷土資料館所蔵)

## 市五郎の生涯

### 地域振興にたゆまぬ努力

市五郎(幼名由之助)は、慶応元年千代田村に生れた。物心ついた頃、村は僅か 16 戸で田は少し、見渡す限り谷地原野で鶴が舞う姿が見られ、熊や狼が横行していたという。

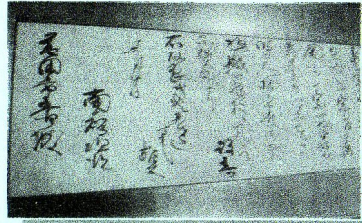
幼少の頃、千代田村、大野村境に開かれた松本塾に漢学を学んだ。明治 11 年(1878)、開校した大野学校に入学し翌年卒業した。その後農業に従事する。

20 歳の時、函館に外国船の寄航が多くなり、西洋野菜の需要に応じきれない現状を知り、東京方面に赴き研究し帰村した。

灌漑用水の導入、西洋野菜の栽培など村の振興に並々ならぬ努力を重ねた。

一方村会議員を長く務め、多くの公職に就いた。

昭和 18 年(1943)、78 歳で生涯を終えた。



南鷹次郎から  
市五郎への  
紙・資料館  
の手

らんじゅほうしょう  
藍綬褒章

＝業 績＝

☆明治 24 年(1891)、久根別川新川より分水溝を開削し、20 町(20 町)余の水田に引く。

☆同 28 年、大野川より 1300 間(2340 町)余の灌漑溝を起工し翌年竣工。水田 100 町(100 町)余に供給。

☆同 30 年、大野川下流より 1500 間(2700 町)の第 2 用水溝を開削し 50 町(50 町)余を開田。

☆同 33 年、30 年に地価低減運動を起し改善に至る。

☆大正 7 年、道拓殖 50 年記念で拓殖功労者として表彰される。

☆大正 14 年(1925)、一本木用水大改修の工事委員長に推され、工事を完成させる。

昭和 16 年(1941)、藍綬褒章を受ける。  
(水田用水を開通せしめて稲作の振興を図り、自治に尽くした功労顕著による)

◎昭和 25 年(1950)、町村制施行 50 周年功績者受賞(故人)

◎同 54 年、北海道新聞に紹介

◎平成 12 年(2000)、おおの広報に紹介